

平成25年度

# 事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

学校法人明德学園

## 目 次

### I 法人の概要について

1. 建学の理念・教育目標について	2
2. 法人の沿革について	2
3. 設置する学校・学部・学科等について	3
4. 設置する学校・学部・学科等の入学定員について	3
5. 教職員について	3
6. 理事・監事・評議員について	4
7. 学園の組織図	5

### II 事業の概要について

1. 明德学園（学園本部）	6
2. 京都経済短期大学	12
3. 京都明德高等学校	26
4. 京都成章高等学校	32

### III 財務の概要について

1. 財務三表	36
2. 当該年度の決算の概要について	40
3. 主な施設設備の整備状況について	40
4. 財産目録	41
5. 主な財務比率について	42

## I 法人の概要について

### 1. 建学の理念・教育目標について

この法人は、日蓮聖人生誕700年記念事業として本圀寺により設立されたもので、日蓮聖人の教えを遵奉し、教育基本法及び学校教育法に従い、宗教的情操の涵養に努め、明知を以て明德を实践する国民の資質を向上せしむる教育をおこなうことを建学の精神としている。

### 2. 法人の沿革について

明德学園は大正10年に設置された明德女学校から出発した。学園歴は、既に90年を過ぎ、京都明德高等学校、京都成章高等学校、及び平成5年4月に高度情報化社会の要請に応じて開学した京都経済短期大学の三校を擁して今日に至っている。

現在、私学を取巻く社会的環境は非常に厳しいものがあるが、今一度学園の建学の精神および教育理念の意義を確認し、「明德学園は働く人づくり日本一の教育機関」をめざすことが社会的使命（責任）であるとし、経営ビジョンの柱として「生き生き働く魅力ある教職員づくり」、教学ビジョンの柱として「将来の生き方につながる職業観の育成」を掲げ、この両輪とともにそのミッションの実現に向かって鋭意努力しているところである。

この間、学園三校の卒業生総数は5万人を超え、全国各地のあらゆる分野において活躍している。母体であった明德商業高等学校は平成9年4月に「京都明德高等学校」と校名を変更して普通科を併設し、平成12年4月に男女共学とした。

さらに、男子校として開校した京都成章高等学校も平成15年4月に男女共学とし、教育の多様化に取り組み、平成18年には創立20周年を迎えることができた。また、平成24年に創立20周年を迎えた京都経済短期大学は、開学以来高い就職率を維持するとともに、課外講座をはじめとする四年制大学への編入対策のサポートを強化し実績をあげるなど、地域に根ざしながらもグローバル社会の中で時代に即応した人材の育成に努めている。

学園傘下の大学・高等学校とも、それぞれの教育目標に沿って順調に教育活動を営んでいる。

年号・年・月	法人の沿革（概要）
明治44年8月	社団法人明德学園創立
大正10年4月	明德女学校創立
大正13年4月	明德高等女学校設立認可
昭和23年4月	明德女子高等学校設置
昭和26年3月	学校法人明德学園へ組織変更
昭和27年4月	明德女子商業高等学校と改称
昭和29年4月	明德商業高等学校と改称
昭和61年4月	京都成章高等学校設置
平成4年4月	明德商業高等学校全面移転

平成 5 年 4 月	京都経済短期大学経営情報学科設置
平成 9 年 4 月	明德商業高等学校に普通科を併設し、京都明德高等学校と改称（収容定員 1,800 名→1,440 名）
平成 12 年 4 月	京都明德高等学校の男女共学化
平成 14 年 4 月	京都成章高等学校の学則変更（収容定員 810 名→1,200 名）
平成 15 年 4 月	京都成章高等学校の男女共学化

3. 設置する学校・学部・学科等について

- (1) 京都経済短期大学 経営情報学科
- (2) 京都明德高等学校 全日制課程（普通科）（商業科）
- (3) 京都成章高等学校 全日制課程（普通科）

4. 設置する学校・学部・学科等の入学定員について

平成 25 年 5 月 1 日現在（人）

学校名	学科等	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数
京都経済短期大学	経営情報学科	150	300	118	246
京都明德高等学校	全日制 （商業科）	480 (240)	1,440 (720)	312 (101)	767 (266)
	（普通科）	(240)	(720)	(211)	(501)
京都成章高等学校	全日制	400	1,200	427	1,327

5. 教職員について

平成 25 年 5 月 1 日現在（人）

学校名	教職員数	内 訳			
		教員		職員	
		本務	兼務	本務	兼務
学園本部 ※部門割人数（ ）を含まず	3 (9)	—	—	3 (9)	0
京都経済短期大学 ※部門割人数（ ）を含む	64 (2)	12	32	17 (2)	3
京都明德高等学校 ※部門割人数（ ）を含む	87 (2)	52	22	9 (2)	4
京都成章高等学校 ※部門割人数（ ）を含む	87 (5)	68	6	11 (5)	2
合 計	241	132	60	40	9

6. 理事・監事・評議員について

平成26年3月31日現在

◇理事（定数13名・現数13名）

名誉理事長	島 正 博		
理事長	松 本 学 昭		
副理事長	川 口 博		
理 事	岩 田 年 浩	田 中 豊 実	
	財 竹 浩 克	日 野 真 代	
	田 中 英 之	佐 藤 健 司	
	平 木 真 人	田 中 雅 夫	
	中 井 正 雄	阿 部 晃 彰	

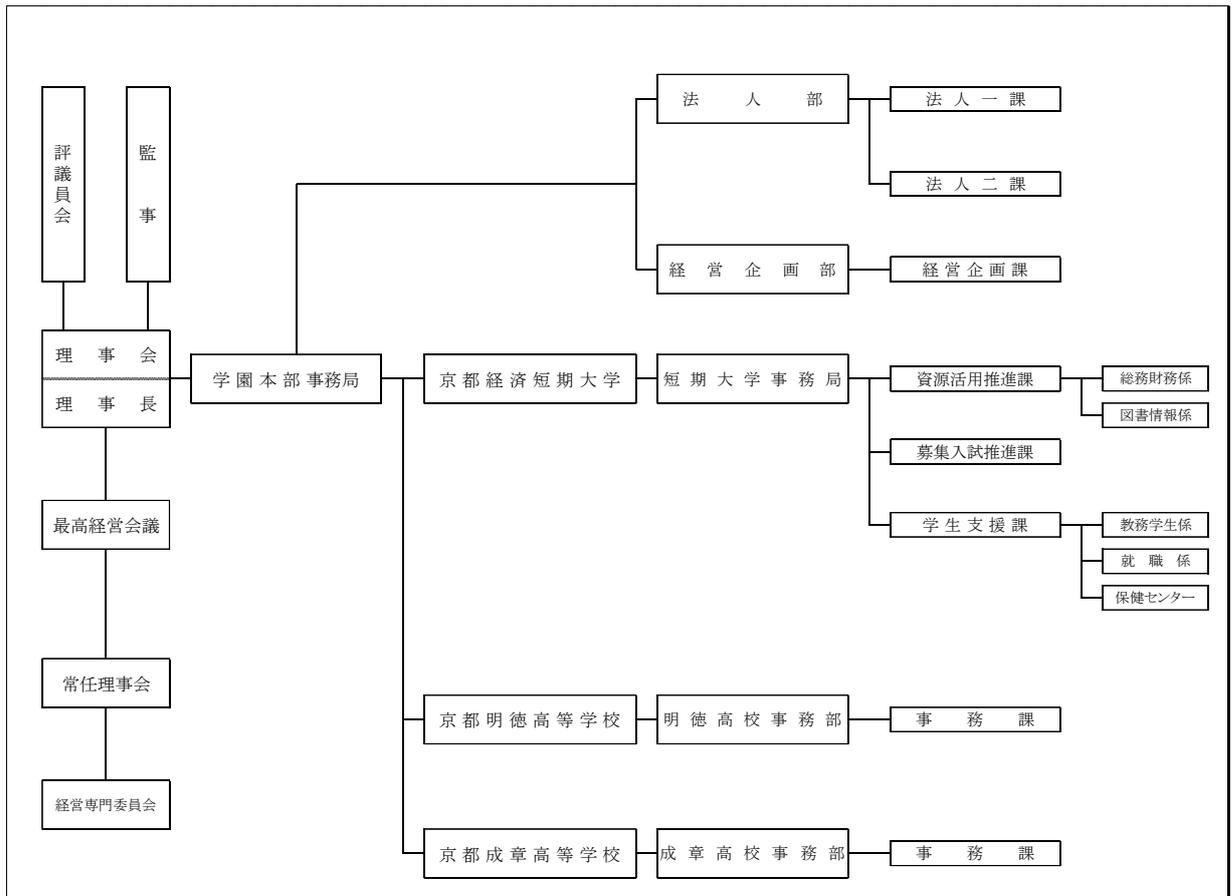
◇監 事（定数3名・現数3名）

常 勤 監 事	上 野 克 也		
監 事	川 勝 康 行	植 田 観 樹	

◇評議員（定数29名・現数29名）

松 本 学 昭	川 口 博	岩 田 年 浩	
田 中 豊 実	財 竹 浩 克	日 野 真 代	
佐 藤 健 司	平 木 真 人	中 井 正 雄	
阿 部 晃 彰	橋 本 功	大 賀 洋 子	
萩 野 昌 彦	須 永 章 義	F O ^ 〱 〱 清 志	
相 根 英 樹	道 端 公 司	藤 木 真 澄	
渡 邊 正 弘	野 間 三 千 代	小 島 理 沙	
上 田 尚 正	伊 丹 栄 彰	今 枝 徳 蔵	
池 田 文 昭	植 田 喜 裕	風 間 随 修	
近 藤 永 太 郎	川 口 智 康		

7. 学園の組織図



II 事業の概要について

## 1. 明德学園（学園本部）

### （1）当該年度の事業の概要について

めざすもの：「働く人づくり日本一の教育機関」  
ミッション：「傍（はた）を楽（らく）にする人づくり」  
経営ビジョン：「生き生き働く魅力ある教職員づくり」  
教学ビジョン：「将来の生き方につながる職業観の育成」

本学園においては、平成17年の改正私立学校法の施行から経営組織改革に取り組みはじめ、9年目を迎えたところである。この私学法の改正を契機として、私学には「運営」から「経営」への転換が求められるようになった。本学園では長期計画として「明德学園、これからの10年」を策定し、法人全体のミッション・ビジョンを全教職員に明示し、教学面、経営面ともに改革を実践し、学校法人の各組織の一層の明確化や、教職員の連携と協力を可能とする体制の構築を図りながら経営組織改革を進めている。

平成25年度においては、経営組織改革9年目にあたり、「明德学園、これからの10年（9）」、並びに事業計画の策定を行い、以下の事項に関する諸事業を推し進めた。

#### ◇明德学園の経営

- スクールガバナンスの構築
- 経営責任と執行責任を明確にし、機能する理事会を構築
- デザイン思考の学校経営
- 教学と経営の融合のために
- 学園本部による各種支援体制の整備

#### ◇明德学園の「人づくり」

- 利己主義から利他主義へ
- インテグリティ（統合性）とダイバーシティ（多様性）の実現のために
- 競争から共創へ
- 教職員の成長が学校法人や学校の価値向上に結びつくことをめざす
- 教育を取り巻く環境変化への対応と職務貢献に応じた賃金制度

#### ◇「教育づくり」の支援

- 教育力向上の取り組みを推進
- 四部門横断的「学園として」の教職員研修会の充実を図る
- 感動体験を生み出す文化・スポーツ活動の推進
- あらゆる場を通じて「宗教する心」の涵養に努める

#### ◇情報をデザインする

- 学校の見えない資産をわかりやすく伝える工夫をする
- 学生・生徒確保につながる企画広報活動の研究
- 学校法人のディスクロージャー制度の更なる研究と実施
- アカウントビリティ（ステークホルダーへの説明責任）

#### ◇資金をデザインする

- スクールファイナンスの構築
- 効率的財政支出に向けての取り組み
- 学園創立記念奨学金の充実をはかる
- お金に命を吹き込む
- ◇監査機能の充実とコンプライアンス
  - 教職員としての職務能力を高めるとともに、公金管理の徹底を図る
  - コンプライアンス体制の確立のために
  - 仕事のあらゆる場面を通じて人権感覚を高めるための工夫を図る
- ◇ファシリティマネジメントの構築
  - 戦略的施設の取得と管理
  - 現有施設・設備の有効活用とその姿勢

### 主な事業の内容

私学経営を行うにあたり、経営には戦略が不可欠である。学園本部には、単なる事務局としての役割だけに留まらずに、経営戦略機能を有する経営事務局としての役割を強化していくことが求められている。その目的を達成するために、本部内に法人部と独立性の高い経営企画部を配置しており、本年度は以下のような事業を展開した。

#### ◇理事会の開催

学校法人の価値向上のために、学校としての視点から学園としての視点、大局的・戦略的なものの見方考え方をもって、以下の議案について意思決定を行った。学校法人運営の鍵は教職員の質の向上にあり、今後も長期的かつ普遍的なビジョンを教職員に提示し、それを実現できる人を育てる組織・仕組みをつくっていく。

#### (主な議案)

- 明德学園ランドデザイン「明德学園、これからの10年(9)」
- 平成25年度明德学園監事監査計画
- 平成25年度明德学園人事委員会委員の選任
- 平成25年度個人情報保護委員会委員の選任
- 平成24年度事業報告
- 平成24年度収支決算
- 平成24年度決算に基づく財務分析
- 第9回明德学園研修・懇親会
- 平成25年度補正予算編成方針
- 平成25年度学園創立記念奨学生の決定
- 平成25年度補正予算
- 平成26年度予算編成方針
- 第2号基本金の追加組み入れ
- 平成26年度明德学園管理職人事
- 両高校における平成26年度生徒等納付金
- 平成25年度最終補正予算
- 平成26年度当初予算

- 平成26年度経営専門委員会
- 平成26年度事業計画
- 第3号基本金の追加組み入れ
- 明德学園教育振興基金
- 学則変更（京都経済短期大学、京都明德高等学校、京都成章高等学校）
- 諸規程・規則等の整備

#### ◇評議員会の開催

学校法人の価値向上のために、学校としての視点から学園としての視点、大局的なものの見方考え方をもって、以下の議案について諮問を行った。

(主な議案)

- 平成24年度事業報告
- 平成24年度収支決算
- 平成25年度補正予算
- 平成25年度最終補正予算
- 平成26年度事業計画
- 平成26年度当初予算

#### ◇教職員研修会の実施

全部門横断的な「教職員研修会」としての「第9回明德学園研修・懇親会」を、今年度は「明德学園のこれからをデザインする」をテーマに実施した。この研修・懇親会は、学園のミッション・ビジョンを実現することを目的として学園創立記念日に京都 東急ホテルにて開催しており、教職員の教育力の向上と活性化を図ることを目指して実施している。川口副理事長による講演の後、グループディスカッション、経営専門委員会中間報告、永年勤続表彰式、懇親会等を行った。

また、「ソーシャル・ビジネス」をテーマに、職員による職員研修会を産官学からの講師を招き実施した。今後も、教職員の研修内容を充実・発展させていく。

#### ◇教学と経営の融合

業務執行機関のスタッフ組織としての経営専門委員会をタイムリーに再構築し、理事・教員・職員が委員となり、戦略重視の政策提言を行った。今後も戦略機能重視で政策提言能力のある理事・教員・職員混合型の専門委員会を進化させていく。

#### ○ひとイノベーション委員会

誰にも正解の分からない現代において、学園の発展に意義ある新たな価値を創造し、学園に大きな変化をもたらす自発的な人、大きな変化を起こす人をいかに多く育てていくかを提案すべく、何をすべきか、何ができるか、何が有効かを審議した。

#### ○100年委員会

明德学園は8年後に創立100周年を迎える。100年委員会では、「来たるべき100周年に向けて、ヒト・モノ・カネの最適化をはかり、歴史の重みを実感できる、信頼される学校法人にする取り組みをすすめる」を諮問内容とし、寄付・事業・年誌を3つの柱と位置付け、審議した。そして、100周年までの残り8年間で何を、いつ、どのように取り組むべきかを「100周年クリエイティブプラン」としてまとめた。

#### ◇監査の実施

学校法人の価値向上を目的とし、学校としての視点から学園としての視点、各機関から独立した立場をもって、財務及び業務について適正かつ効率的な運営に資するために以下の事項について監査を行った。今後についても引き続き、学園のミッション・ビジョンに沿った運営が円滑に遂行できるように内部統制制度の構築・強化を主としたガバナンス体制を構築するとともに、教職員における公金管理の意識徹底の向上を図っていく。また、学園全部門における業務内容を横断的に把握することで学園財産の保全及び業務の活性化へと繋げていく。

〈平成25年度実施監査〉

内部 監事 監査	第1回	平成24年度京都明德高等学校・京都成章高等学校クラブ活動に係る収支及び管理・指導体制について 日程：H25.07.12、07.16、07.18、07.22、07.23、07.24、07.25、07.29、08.01
	第2回	京都経済短期大学・京都明德高等学校・京都成章高等学校における業務運営状況について ①学校食堂及び購買部における学生生徒利用状況及び管理運営状況について ②学生・生徒間におけるいじめ・暴力等を未然に防ぐための取り組みについて ③明德学園クレドの定着・浸透状況等について 日程：H25.12.06、12.12、12.17、12.24
	第3回	平成24～25年度京都経済短期大学・京都明德高等学校・京都成章高等学校各周辺団体に係る収支及び管理状況について 日程：H26.02.21、02.24、02.26、02.28、03.06
監査 法人 監査	平成24年度 期末監査	大手前監査法人による監査（※三様監査も実施） 日程：H25.04.08、05.17、05.20、05.21
	平成25年度 期中監査	大手前監査法人による監査（※三様監査も実施） 日程：H26.03.03、03.04、03.05

#### ◇資金をデザインする

戦略的財務資金運用を主軸に学園財政の安定を図った。基金の充実は「お金に命を吹き込む」ことの重要なポイントである。

「学園創立記念奨学金」は今年度も引き続き 100 名に奨学金を給付することができた。

「明德学園教育振興金」は教育の振興を目的に京都明德高校ソフトボール部・ダンス部、京都経済短大ネパール教育支援に助成を行った。

「ハタ・ラク人づくり研究基金」は設立から着実に基金の充実を図っている。

学校づくり・教育づくり・人づくりの基盤として今後も基金の充実・発展を推進する。

#### ◇情報をデザインする

○学園広報誌「学園四季」の発刊（夏号・秋号・冬号・春号）

明德学園の「ハタラク人」をテーマに、学園 4 部門の教育実践の紹介や様々な話題を掲載。

○新聞広告の掲載

学園のミッション・ビジョンを印象づけることを目的に、学園創立記念日（10 月 23 日）の京都新聞・朝日新聞（京都版）朝刊に掲載。

○学園 Web サイトの更新

学園の「傍を楽にする人づくり」をコンテンツとして表現。

情報公開が必要な項目があれば積極的に更新・公開。

○学内広報誌「学内ニュース」の発行（第 66 号～第 72 号）

学内教職員を対象に、学園からの告知等を含め情報の共有と公開を目的に発行。

#### ◇情報の公開

ステークホルダーへの信頼を得ることを目的とし、信頼される重要な情報として財務情報・事業報告を積極的に公開。今後も、個人情報をはじめ保護すべき情報には十分配慮しつつ、さらなる情報公開への整備を継続して推し進めていく。

#### ◇情報管理と活用

各学校で募集広報のツールとして活用されている Web サイトについて、本部情報管理担当が内容の充実と運用の利便性向上を支援。また、短大のシステム運用委員会に随時出席し、学園のシステム環境全般の整備を推進している。

#### ◇法務・コンプライアンス体制の確立のために

紛争処理・対処機能として法的問題への解決支援を、予防法務機能として各部門からの法的リスクに関する相談、契約書文言の修正、規程等の改定提案、新規制定・改正法令の告知・対応等を行った。今後も、単なる法令遵守にとどまらない SSR（学校の社会的使命）を全うすべく、法務・コンプライアンス体制の確立に努める。

#### ◇ファシリティマネジメント

学園としての総合的な施設設備活用を進めている。また、これらの取り組みを通じ学生・生徒と教職員が「施設を美しく使う」「モノを大切に使う」心を育み、良いモノを安く提供していただける企業と良好な関係を築き上げることを推進している。前年に続き「学校食堂」の施設・設備の充実を図り、また、100周年に向け第2号基本金の計画的積み立てを実施した。さらに、各部門における現有固定資産の現物照合作業の実施と、物品購入手続きの運用について注力した。今年度は京都市建築基準法施行細則の改正に伴い、建築物及び建築設備について定期点検報告等も実施した。

## (2) 今後の課題について

学園・学校のあるべき姿をきちんと世の中に伝えていくために、学園や学校のビジョン・校風といった見えない資産の「見える化」を図るなど、学園のこれからをデザインするため、長期計画ではデザイン思考の学校経営、人間中心のイノベーションをはじめとして「経営組織改革」「学校づくり」「教育づくり」「人づくり」「各学校の発展と経営基盤の強化」を掲げている。

ミッション・ビジョン実現のために、教職員自らが向上し「競争から共創」を図ることができる仕組みを構築し、新しい価値をつくり・変化の時代に対応しうる人材育成の取り組みを引き続き行うと同時に、明德学園創立100周年事業にむけて、更に経営基盤の強化、法務・コンプライアンス体制の確立、財務・資金運用及び広報・情報管理等を戦略的に推進していくことが今後の課題である。

## 2. 京都経済短期大学

(1) 当該年度の事業の概要について

学園のミッションおよび本学の教育理念・教育方針に基づき、あらゆる機会や諸活動を通して、学生の人間形成、能力開発の向上に直結するよう、きめ細やかで丁寧な教育に注力しながら以下の事業を展開した。

■全学的事業

ア. 中期事業計画及び収支改善計画の策定に向けた取組み

- 社会のニーズに即応した更なる教育改革への方策（コース・副専攻・カリキュラム等の検討）
- 退学・除籍者数の削減に向けた方策（教員・職員による手厚いバックアップ）
- 基礎学力定着に向けた方策（SPI対策等、学習プログラムの見直し・各種検定試験の導入）
- 学生諸活動の更なる充実に向けた方策（就学・修学のための様々な支援等）
- 収支改善策計画への方策（学生確保と退学・除籍者の抑制及び更なるコスト削減）

イ. 教育充実にに向けた取組み

カリキュラムポリシーに基づき、学生の状況に合わせてながら教育方針等についての意見交換を行いながら、従前からの教育事業を更に前進させた。

- ミニマムのあり方についての意見交換を実施  
※学生実態における問題点の見直し・改善・実行。
- ゼミナール研究発表会を全員出席（必修）として実施  
※本年度は更に出席率が向上しゼミナール連絡会の活動も活発化。

○ゼミナール研究発表会 2013年12月19日 (於：本学大教室)

ゼミ名	発表内容・テーマ(発表順)
近藤ゼミ	四足歩行ロボットについて
友田ゼミ	東京ディズニーリゾートの財務分析
加藤ゼミ	家具のスイミー
小路ゼミ	経短ツール
岩田ゼミ	経済データの分析 ～自動車産業について～
西川ゼミ	経短周辺地域について
藤原ゼミ	2013年度ネパール教育支援活動 ～ Don't think! Feel! 考えるな! 感じる! ～
松田ゼミ	分析力を武器とする企業
佐藤ゼミ	滋賀県の産業と企業経営
伏見ゼミ [指導:友田]	餃子の王将について
増田ゼミ	地域社会とまちづくり
プロ演	学内システムハンドブック政策プロジェクト
プロ演	地域と大学の共生プロジェクト

- 資格取得単位認定制度の検討

資格取得単位認定制度における上位資格取得に対する2単位化を実施し、以下の資格について追加をおこなった。

◎ 認定対象資格

基準 A	基準 B
日商簿記検定（3級） 秘書検定（3級） 日商PC（文書作成）検定（3級以上） 日商PC（データ活用）検定（Basic以上） Microsoft Office Specialist[MOS]Word Microsoft Office Specialist[MOS]Excel ビジネス文書検定（3級以上） 日本語能力試験（N1/1級） 日本留学試験（日本語）（スコア200以上） TOEIC（スコア400以上） ファイナンス・プランニング技能検定（3級以上）	日商簿記検定（2級以上） 秘書検定（2級以上） 語彙読解力検定     TOEIC（スコア630以上） ITパスポート

ウ. きめ細かな教育と指導体制（多様な学生に対する対応）としての取組み

○ 丁寧な教育・学生指導

本学教職員による丁寧な教育・学生指導は、他学における一般的な「オフィスアワー」を遥かに超える献身的な教育活動であり、教科指導以外に編入学対策や就職対策のための個別指導など、多様な情報ツールの活用対面指導により、生活指導面なども含めて教員、職員共に24時間対応で日常的に実施した。

○ 特別教育活動

各担当教員の指導のもと、研究・発表・討論等を行なうゼミナールにおいては、一年を通して様々な場面において特別教育活動が展開した。

- (1) 地校外指導・合宿、地域連携、工場見学、フィールド・ワーク、ヒアリング調査、ネパール教育支援活動、シンポジウム開催（ビジネスシンポジウム[企業人による講演、パネルディスカッション等の実践教育]）
- (2) 夏期特別講義・講習（英語補習、パソコン組立て、勉強会、ITパスポート試験対策講習・勉強会、プログラミング学習会、簿記検定対策勉強会、春期研究会（卒業論文執筆の研究準備）など。

○ 進路指導（編入学）

- (1) 指導の成果として新たな実績（国公立大学や有名四年制大学などへの一般編入合格・新規校の開拓）
- (2) 経営経済特別講義の小論文対策に大学院生TAを導入
- (3) 編入学希望者全員を対象とする面談を実施

※志望校選定や勉学の進展状況等に関する情報把握が前進

○ 進路指導（就職）

- (1) 各講義・基礎ゼミ・ゼミ・演習などを通じて基礎能力の育成に注力
- (2) 就職活動支援時に、教職員の立場から自立的就職活動への啓蒙
- (3) 就職志望学生を対象にした SPI 模擬試験の実施と SPI 試験対応を視野に入れた基礎教育を実施
- (4) 就職関連カリキュラムを点検し、関連科目の実施状況と継続等を検討  
※ キャリアプランニング科目の統廃合を決定

○ 国際交流（留学生への対応と支援）

- (1) 留学生入学前オリエンテーションを実施
- (2) 日本語 S A や国際相談室サポーター（相談員）設置による修学支援
- (3) 国際交流講演会、留学生と日本語 S A 交流会の開催  
（生協 Cafeteria にて、水餃子作り & 日中交流）
- (4) 留学生による一般人向け語学講座（中国語、ロシア語）を開講

○ 学生指導・支援

- (1) 多様な学生に対する情報の共有化を図り、連絡体制を強化
- (2) 学生相談室の設置により、引き続きカウンセラーとの個別指導を実施
- (3) 「学生相談室年報」を発行（年 1 回）

エ. 退学者・除籍者の減少への取組み

- (1) 基礎学力の問題学生や単位取得僅少者に対する早期アプローチを実施
- (2) 経済的な困窮状況や精神的な修学問題など、全学的な支援体制（留学生用相談員を別途設置）を図りながら、更なる充実を検討
- (3) 入学前オリエンテーションの実施や留学生集会を開催し、授業への出席状況なども含めた素早い情報収集に注力

オ. 高短一貫教育への取組み

今年度の京都明德高等学校との「高短連携講義」は、前年度に引き続きオムニバス講義形式でおこなった。受講した高校生反応も概ね好評であった。

今後は、この「高短連携講義」の他にも、京都明德高等学校との様々な連携を図りながら、充実した高短一貫教育に向けて更に前進していくために早急に準備に取り掛かりたい。

◎高短連携講義 2014年3月7日

対象：京都明德高校第2学年生徒・同学年等関係教職員

担 当 者	講 義 内 容 等
岩田 年浩、 佐藤 健司、 藤原 隆信、 小路 真木子 加藤 康、 増田 和夫	オムニバス講義 テーマ：何が変わるの？ ①狸は化ける（狸の変化[ヘンゲ]） ②日本企業は変化する ③ネットで変わる知恵 ④ネパール訪問で変わる学生
司会：在学生2回生 2名(他校出身者) 発表：京都明德高校出身2回生 1名 京都明德高校出身1回生 1名	学生発表の部の総合司会・進行 希望校への編入学達成者 学生生活の謳歌している優良学生

カ. システムリニューアルに向けた取組み

- (1) 2013年度早々に完成し、その結果、大塚商会の業界専門宣伝紙にも掲載され、多方面から注目を浴びた。

## ■個別事業

ア. 教育・研究活動

- 全教員が、研究の経過及び到達点と成果等を「研究業績報告書」に記述し、学科内で相互の情報を共有した。
- オムニバス本『利益と企業がわかる』（ミネルヴァ書房）を発行。これまでにないスタイルと斬新なアイデアで各方面より注目を集める経営、経済、情報、地域などに関する入門書。
- 研究紀要『京都経済短期大学論集』を発行することにより、研究発表の場を確保した。
- 経営・情報学会を通じて年5回の研究会を開催し、専任教員および特任講師による研究報告を実施した。
- J S P S（日本学術振興会）科研費研究助成金の獲得に係る事業を実施した。

研究業績等

氏 名	職 名	研 究 業 績				国 際 的 活 動 の 有 無	社 会 的 活 動	備 考
		著 書 数	論 文 数	学 会 等 発 表 数	そ の 他			
岩田 年浩	教授	1	1	2	1	有	8	
佐藤 健司	教授	2	3	2	2	無	—	
西川 宝	教授	1	1	—	—	無	1	
近藤 光重	教授	1	1	—	—	無	—	
小路 真木子	准	1	1	—	—	無	1	

	教授							
藤原 隆信	准教授	2	—	—	—	無	6	第三者認証研究（受託研究費）
加藤 康	准教授	1	1	—	1	無	—	
松田 昌人	准教授	2	1	2	—	無	—	
伏見 康子	准教授	—	—	—	—	無	—	産休・育児休暇 2014.03.18マテ*
増田 和夫	講師	1	5	2	—	無	1	
友田 光明	特任講師	1	1	1	1	無	—	
山岸 忠	特任講師	1	—	—	1	無	—	

※その他は、「研究ノート」「資料」「翻訳」「調査報告」「レポート」の件数

第三者（文部科学省、他大学、経営団体等）により認証された研究

研究者等	研究テーマ（代表研究者名）	研究項目（文科省科研費等）
藤原 隆信	『ワーク・インテグレイション』の検討と社会共生的形成手法の開発	龍谷大学社会科学研究所・共同研究費

著作物 執筆状況

執筆者	著書名	分類
岩田年浩 佐藤健司 西川 宝 近藤光重 藤原 隆信 小路真木子 加藤 康 松田昌人 増田和夫 友田光明 山岸 忠	『企業と利益がわかる』  出版社：ミネルヴァ書房	共著
藤原 隆信	『市民社会が変える企業社会』  出版社：文理閣	共著

論文（査読付論文）等

岩田 年浩	On the Gap between the teachers and pupils in the Economics Thinking 2013 — Promoting School Economics Education in Korea (KDI 発行) —
-------	---

論文

佐藤 健司	アメリカ大企業におけるウェルフェア・キャピタリズムの展開 (京都経済短期大学論集第21巻2号)
西川 宝	授業改善による授業評価の変遷 I (京都経済短期大学論集第21巻2号)
近藤 光重	手書き原稿の裏面画像による教育 (京都経済短期大学論集第21巻2号)
小路 真木子	ウェブシラバス・システムの開発 III — ウェブアプリケーション版管理ツール (京都経済短期大学論集第21巻2号)
松田 昌人	ダイナミック・ケイパビリティと情報システム入門 (京都経済短期大学論集第21巻3号)
増田 和夫	経済学・激論ゼミナール (2) (京都経済短期大学論集第21巻1号)
増田 和夫	経済学・激論ゼミナール (3) (京都経済短期大学論集第21巻2号)

#### 研究ノート

佐藤 健司	戦時期アメリカの社会科学におけるヒューマン・リレーションズの展開 (京都経済短期大学論集第21巻1号)
佐藤 健司	産学協同ネットワークの構築課程 — エルトン・メイヨー、ロックフェラー財団、ハーヴァード・ビジネス・スクール — (京都経済短期大学論集第21巻2号)
加藤 康	倉庫業とフレキシビリティ (京都経済短期大学論集第21巻1号)
増田 和夫	座談会：TPP, RCEP, そして日本 (経済科学通信 第133号)
増田 和夫	座談会・基調報告Ⅲ「3.11以降の日本経済」 (経済科学通信 第133号)
増田 和夫	書評：関野秀明著「現代の政治課題と資本論」 (学習の友社)
友田 光明	簿記要点整理 (2) (京都経済短期大学論集第21巻2号)

#### 被引用 (他文献)

佐藤 健司	藤沼司「メイヨー — 人間関係論の思想的基盤 —」(89-132 ページ) 経営学史学会監修・吉原正彦編『経営学史叢書Ⅲ メイヨー＝レスリスバーガー—人間関係論—』文眞堂
-------	--

#### 社会活動

岩田 年浩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本経済の動向について (社) 広島北法人会</li> <li>・アベノミクスの真価と日本経済のゆくえ 京都銀行網野支店</li> <li>・日本の景気回復と東アジアでのプレゼンスについて (社) 日本船用</li> </ul>
-------	--

岩田 年浩	<p>工業会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの中の経済学① 宝塚市民カレッジ</li> <li>・暮らしの中の経済学② 宝塚市民カレッジ</li> <li>・今後の経済動向と企業の対応 吉備経済クラブ</li> <li>・日本の今後はどうなるか 茨木シニアカレッジ</li> <li>・On the Gap between the teachers and pupils in the Economic Thinking 2013 International Conference on Promoting School Economic Education in Korea, Japan and the U.S.</li> </ul>
西川 宝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 花山星空ネットワーク 監事</li> </ul>
藤原 隆信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洛西ケーブルビジョン番組審議会 委員長</li> <li>・京都市立洛西中学校学校運営協議会理事</li> <li>・京都京洛ライオンズクラブ 理事</li> <li>・洛西中学校国際理解教育報告ネパール教育支援活動報告</li> <li>・明德学園職員研修会「ツキイチ会」報告</li> <li>・小畑川清掃活動&amp;環境保全勉強会</li> </ul>
小路 真木子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生協京都事業連合理事 京都経済短期大学生協理事長</li> </ul>
松田 昌人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本情報経営学会関西支部運営委員</li> <li>・日本情報経営学会関西支部第226回例会</li> </ul>
増田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済科学通信編集委員</li> <li>・市民大学院：森嶋学講義</li> </ul>

#### 学会・研究活動

岩田 年浩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済教育学会理事</li> <li>・2013年経済教育学会第29回全国大会（9月28日）の全体シンポジウム「いま経済を学ぶ意義とは」でパネリストとして報告</li> </ul>
佐藤 健司	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済教育学会第29回全国大会分科会報告 岩田年浩・佐藤健司・藤原隆信「現代の企業・利益に各分野から迫る—オムニバス講義の実践—」（2013年9月29日；滋賀大学）</li> </ul>
藤原 隆信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学評価学会理事</li> <li>・日本比較経営学会理事（学会誌編集委員会・委員長）</li> <li>・日本比較経営学会第38回全国大会（2013年5月10～12日、於：鹿児島国際大学）統一論題報告「市民社会の論理と公益企業（Benefit Corporation）」</li> </ul>
増田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎経済科学研究所（学術会議公認学会）常任理事</li> <li>・経済教育学会 会計監査</li> <li>・基礎経済科学研究所第36回大会（京都府立大学）並行セッションF、経済科学通信パネルディスカッション</li> <li>・経済教育学会 2013年大会（滋賀大学）分科会5の座長</li> </ul>

#### イ. 第三者評価における課題

各課題について、現状を踏まえて優先順位を見極めながら適宜実施した。

- 当事者意識（経費への理解）による中期計画の策定
- 退学・除籍者への対応策の提案
- 全教員による経営・情報学会での発表と論集の発行

※別途掲載

#### ウ. FD・SD研究会

本年度のFD・SD研究会は、本学の現状を日々の様々な教育活動について、経営的な観点からも考えることを目的として、以下通り実施した。

- FD研究会（教員）：教育経験情報交流会（6回開催）
- SD研究会（職員）：情報交換とスキルアップを図った（8回開催）

#### エ. 講義アンケート

講義アンケートについては、前期・後期の各期（年2回）実施し、その結果を利用して、各科目においての授業展開に工夫がなされた。

- 前期 講義アンケートの実施（期間：2013年6月～7月）
- 後期 講義アンケートの実施（期間：2013年12月）

#### オ. 学生募集（入試）活動

「受験生や保護者・保証人、地域社会から選ばれる短期大学」として、進路実績においては、就職内定率98.04%、編入学合格率95.1%との成果を挙げる事ができた。

二年連続で入学者が減少していたが、本年度は二年ぶりに回復傾向に転じた。しかしながら、未だに本年度の学生募集においても目標数値には到達せず、次年度こそは、オムニバスをはじめとする斬新でタイムリーなカリキュラム、新しいコース制、著名な教員などにより、必ず回復出来るように現状の分析とともに、先を見た次年度以降に向けて様々な施策の検討をおこなう。

#### ■ 2013年度のおもな年間行事

2013年 4月	入学式、基礎ゼミ別交流会、新入生保護者・保証人対象進路説明会、学力試験、フレッシュデー、定期健康診断、第1回編入学試験、新入生歓迎会（学友会）
5月	京都経済短期大学生活協同組合総会、洛西クリーンウォーク（清掃ボランティア）、教育後援会総会、京都明德高等学校保護者会での本学紹介、同生徒向け本学進学説明会
6月	スポーツ大会（学友会）、京滋短期大学事務局会、オープンキャンパス、同窓会総会、教育後援会役員会・懇親会

7 月	学友会と執行部との公開懇談会、新ゼミ集会、京滋短期大学連合連絡会、前期定期試験、オープンキャンパス、経営経済特別講義（～7/31）
8 月	オープンキャンパス、京滋大学生生活協同組合連合会総会
9 月	前期追再試験（～9/4）、後期オリエンテーション、スポーツ大会（学友会）、前期卒業式、後期授業開始
10月	小畑川清掃活動&環境保全勉強会、内部推薦入試、特別奨学生選抜入試、AO 前期入試、外国人留學生奨学金授与式、学園創立記念奨学金および教育後援会創立記念奨学金授与式、秋華祭（学友会）、保護者・保証人対象進路説明会
11月	京都明德インターンシップ生受入、推薦入試前期日程、論集第21巻第1号発行
12月	教育後援会研修旅行（京都・東山区 坂本龍馬ゆかりの霊明神社ほか）、推薦入試後期日程・AO 中期・留学生第1期および自己推薦入試前期日程・ゼミナール研究発表会（本学大教室）
2014年 1 月	就職ガイダンス、後期定期試験（～1/28）、経営経済特別講義Ⅱ（～1/31）
2 月	一般入試前期A日程・外国人留学生第2期、キャリアプランニング特講（～2/10）、一般入試前期 B 日程・外国人留学生第3期、後期追再試験（～2/26）、全国民放統一キャンペーン FM 京都来局・放送（放送は3/3）、内部進学者対象入学前ガイダンス
3 月	高短連携模擬講義、一般入試後期日程・外国人留学生第4期および社会人学生後期日程、学生論集刊行、論集第21巻第3号発行、卒業証書・学位記授与式、卒業を祝う会、AO（自己推薦）入試後期日程、留学生入学前オリエンテーション、入学予定者特待生奨学生証授与式、在学特待生春期面談

## ■ 管理・運営事業

### ア. 円滑な管理運営

- 学園の管理・運営組織には、本学教職員〔理事会（2名）、常任理事会（2名）、評議員会（3名）、経営専門委員会（4名）〕がそれぞれ参画し、有機的にその機能を果たしている。また、本学においては、学長のリーダーシップの下、学長方針に基づいた円滑な教授会（年20回）が開催され、さらにその調整役としての執行部会は、各委員会や事務組織との連携を図りながら、教育・研究活動に励めるようにその運営を心掛けた。

[各委員会組織名]

- ・ 教授会
- ・ 執行部会
- ・ 人事委員会

- ・ 教学委員会
- ・ 募集入試委員会
- ・ 就職委員会
- ・ 図書学会委員会
- ・ 第三者評価委員会
- ・ システム運用委員会
- ・ 留学生委員会（教学委員会に包括）
- ・ 衛生委員会
- ・ 洛西・地域研究センター
- ・ ハラスメント防止委員会

○ 学園が掲げる経営ビジョン実現のための取り組みであるコンプライアンス（組織倫理や社会規範の遵守）の定着については、本学においても全学的な取り組みとして、教授会、FD・SD研究会などの様々な機会を通して啓蒙し、その定着度は上がった。

イ. 安全な教育・研究環境の整備

○ 教育並びに福利厚生に関係して、施設・設備整備計画に基づき実施した。

ウ. 環境改善活動

○ KES環境機構の認証を継続（日本の大学・短大として初の認証）  
 KES環境機構「ステップ1」の認証（継続）については、引き続き「KES推進事務局」が中心となって進捗状況を管理した。

◎環境改善状況（2013年4月～2014年3月）

具体的施策目標	改善状況事例
電気使用量の削減[電気・ガスにおけるCO2排出量の1%削減（前年比）]、節水運動	電気・ガス・水道の使用の見直し
事務用紙使用量の削減[事務用紙使用量の1%削減（前年比）]	紙類等の使用料削減を呼びかける啓蒙運動等
環境保全のための清掃活動及び勉強会の実施[地域の清掃活動に参加、勉強会開催年4回]	洛西クリーンウォーク参加、小畑川清掃活動、環境保全勉強会

(2) 見学者、入学志願者、受験者、合格者数等の募集入試に関する状況について

◎ オープンキャンパスの実施

第1回 2013年4月24日 参加者数： 29名 [Pre-Open Campus]  
 第2回 2013年6月23日 参加者数： 45名  
 第3回 2013年7月28日 参加者数： 104名  
 第4回 2013年8月24日 参加者数： 75名 **合計 253名**

入試形態	入試日程	志願者数	受験者数	合格者数	手続者数	入学者数
内部推薦	10月12日	10	9	9	9	9

内部特待・特待選抜前期		14	14	14	14	14
AO(自己推薦)前期		6	6	6	6	6
小計		30	29	29	29	29
推薦前期	11月9日	34	34	34	34	34
指定校特待		2	2	2	2	2
小計		36	36	36	36	36
推薦後期	12月7日	5	5	5	5	5
AO(自己推薦)中期		3	3	3	3	3
推薦追加		0	0	0	0	0
特待選抜後期		2	2	0	0	0
社会人前期		2	2	2	2	2
留学生1期		2	2	2	2	1
小計		14	14	12	12	11
一般前期A	2月8日	32	31	31	26	24
留学生2期		0	0	0	0	0
小計		32	31	31	26	24
一般前期B	2月22日	9	9	9	9	7
留学生3期		2	2	2	2	2
小計		11	11	11	11	9
3月特別推薦	3月8日	5	5	5	5	5
一般後期		19	19	19	13	13
社会人後期		0	0	0	0	0
留学生4期		2	1	1	1	1
小計		26	25	25	19	19
AO(自己推薦)後期	3月20日	2	2	2	2	2
留学生追加		0	0	0	0	0
小計		2	2	2	2	2
特待移行						
総合計	合計	151	148	146	135	130

\*復学 1名あり。 よって新1回生は131名となる。

(3) 卒業者数、学位授与数等の状況について

卒業年度	2011年度	2012年度	2013年度
卒業者数 短期大学士 (経営情報学)	139名	145名	116名

※ 前期卒業生を含む

(4) 学生の就職・進学状況について

区 分	2011年度 卒業生	2012年度 卒業生	2013年度 卒業生
編入決定率	97.0%	95.1%	95.1%
就職内定率 ※家業従事含む	97.4% (75/77人)	98.7% (77/78人)	98.1% (51/52人)

○2013年度卒業生の主な編入大学 **\* ( ) は複数人数場合のみ**  
 関西大(2)、龍谷大(2)、京都産業大(4)、大阪経済大(3)、駒沢大、  
 関西外国語大、京都橘大、国士舘大、追手門学院大(3)、神戸学院大(5)、  
 京都文教大(2)、桃山学院大、大阪商業大、大阪産業大、大阪経済法科大、  
 大阪電気通信大、摂南大学、大阪国際大、京都学園大、など。

○2013年度卒業生の主な就職内定先 **\* ( ) は複数人数場合のみ**  
 株式会社京都銀行、たじま農業協同組合、京セラ SLC テクノロジー株式会社  
 (2)、株式会社西利(2)、双和電機株式会社、由利ロール株式会社、株式会  
 社壬生電機製作所、株式会社國友銃砲火薬店、株式会社桶谷製作所(2)、株式  
 会社毛戸製作所、トーステ株式会社、株式会社のむら、西日本旅客鉄道株式会  
 社、京滋ユアサ電機株式会社、光栄自動車設備株式会社、株式会社光通信、株  
 式会社オンテックス、ムラテック販売株式会社、滋賀ダイハツ販売株式会社(2)、  
 株式会社ホンダカーズ京都、京都日産自動車株式会社、株式会社リバティ(2)、  
 株式会社ライトオン、日本ブレード株式会社、株式会社白鳩、株式会社ジャパ  
 ンイマジネーション、株式会社ジェオグラフィー、株式会社丸昌、株式会社ケ  
 イ・ウノ、株式会社コメリ、ベイシスト株式会社、株式会社引越社関西、株式  
 会社オプティカル、新生ホームサービス株式会社(2)、株式会社三浦建設(2)、  
 株式会社昭建、大和観光開発株式会社(2)、株式会社ロイヤルオークリゾート、  
 株式会社スリムビューティハウス、金氏高麗人蔘株式会社、株式会社ラクオス、  
 株式会社アーリア、株式会社演算工房、エフエー・ネット株式会社、大津コン  
 ピュータ株式会社、ワタミ株式会社、医療法人湖青会、有限会社六匠、医療法  
 人啓友会洛西けいゆうの里、社会福祉法人近江ふるさと会 など。

(5) 今後の課題について

学長方針として、

[1] 2013 年度に引き続き、「オムニバス講義」の充実を図る。

他大学にはほとんどないオムニバス講義は教員間の壁を低くし、学生たちが本学で全体としての学びのイメージを明瞭にする意味をもっている。そのために、2014 年度は次の状態へ発展させる。

- ・経済・経営科目担当者での座談会を公開する。
- ・有能な非常勤講師も加わってもらう。
- ・学生の意見や質問を受けて、学生参画型授業にする。
- ・2013 年度初版の『企業・利益がわかる』（ミネルヴァ書房刊）を高校の進路担当者に向けて宣伝し、受験生の獲得につなげる。
- ・同書の第二版を発行する。

[2] コース制のさらなる充実を図る。

コース制は現代社会と受験生のニーズに応えるもので、懸案であったが、ようやく 2013 年度に策定できた。

- ・具体的な実行の態勢を整える。
- ・秘書・事務コース等の副専攻を主専攻にする。

[3] 新設科目の充実を図る。

- ・ビジネス英語等の科目を設置する。
- ・他方、不要とみられる科目は整理する。

[4] 昨年度から始めた授業の公開を進める。

授業の公開は日本の大学・短大の閉鎖性を破るものであり、必要である。

- ・本学紹介のパンフレットを引き続き重視する。
- ・本学のホームページ上での専任・常勤教員のデジタル教材の公開をより実効あるものにする。
- ・各ウェブサイトでの宣伝を組織的に強める。

[5] ゼミナール間のゼミナリス滕数のアンバランスについて、有効な対策を考える。

- ・教授人事を円滑に進める。

[6] 引き続き研究活動を重視する。

教員にとって、研究はモチベーションの源泉でもある。そこで、多くの教員が学位（博士号）の獲得を目指す。

また、すべての教員が外部からの研究助成金の獲得への手続きを行うことをめざす。

[7] 二巡目の第三者評価が順調に進むよう準備を進める。特に、昨年度以来の改革の意義は説得力をもつものであり、十分に伝えることが出来るように準備する。

[8] 高校訪問が実効あるものにする。

教員・職員の具体的な経験交流によって、特に対面対話型説明の充実を図る。引き続き、全国の商業高校・商業科へのアピールを続ける。進学率の高まっている女子への教育を重視する。

明德高校との高短連携については今年度をきっかけに大きく発展させ、学生情報の共有化と本学への入学以後のステップアップを確実にする。

公立高校との接触をさらに強める。

[ 9 ] グローカルな活動を学生と共に進める。

国際的にはネパール他への支援と交流をさらに広げる。途上国への支援や交流は同情の域を超えて、一国にとどまらず、実態を正確に把握し、その原因は何か、どのような対策が求められているかを明瞭にする。

成功している大学・短大の特徴は(進学率の伸びている女子の重視とともに) 地域重視の行動をしていることにある。本学も年来の洛西地域との交流を多分野に拡大する。

[ 1 0 ] 引き続きマスコミ対策の規模と内容を拡大する(2013年度は18か月で14回の掲載があったが、こういう状態は他大学にはないものであった)。

また、取引のある、影響力の強い大塚商会やリクルートの広報活動を重視する。

[ 1 1 ] 本短期大学における教授会のガバナンス(教授会自治)をさらに整える。

・各教員にはそれぞれ得手不得手があるので、お互い補っていく。

・事務局との仕事の棲み分けを明瞭にする。

[ 1 2 ] 在学生の学習環境の拡充をはかるとともに、福利厚生や受験生の獲得につながるような環境整備も適宜実施する。また、施設設備の機能を維持するための修繕と予防保全を必要に応じて実施する(法定点検指摘事項含む)。

### 3. 京都明德高等学校

(1) 当該年度の事業の概要について

今年度は300名を超える入学生を迎えた年度であった。新入生は学習意欲、クラブの加入率ともに高く、学内に更なる活気をもたらしてくれた。

[行 事]

- 4月 入学式  
1年生オリエンテーション合宿（校内）  
新入生歓迎会・クラブ体験  
花まつり（宗教儀式と校長講話）
- 5月 遠足  
高校総体  
前期生徒会役員改選
- 6月 球技大会  
生徒大会
- 7月 求人票受付開始・事業所掲示  
救命救急講習会（AED使用法講習を含む）  
修学旅行教育  
サマースクール（京都平安ホテル）
- 8月 保護者特典講座開講  
3年合同面接指導
- 9月 後期生徒会役員改選  
就職試験開始  
秋楓祭（文化祭）
- 10月 生徒大会  
秋楓祭（体育祭）  
お会式（宗教儀式と校長講話）  
創立記念奨学金授与式  
学園創立記念日  
後期生徒会役員改選
- 11月 第6回京都明德キャリアウィーク  
きもの着付け体験  
芸術団体鑑賞
- 12月 成道会（宗教儀式と校長講話）  
修学旅行（沖縄：宮古島）  
ダンス部ライブ  
人権学習
- 1月 大学入試センター試験  
3年スーツ着こなし講座  
2年社会人による講演会

- 2月 降誕会・涅槃会（宗教儀式と校長講話）  
 平成26年度入学試験  
 大谷大学教育連携事業1年
- 3月 平成25年度卒業式  
 2次入学試験  
 新入生合格者招集  
 高短連携模擬講義（於：京都経済短期大学）

[部活動]

◇ ダンス部

- ★日本ダンス大会 優勝
  - ・Legend Tokyo chapter3 ティーンズゲスト出演
- ★全国高等学校ダンスドリルチーム選手権大会 2013 HipHop 部門 優勝
  - ・関西ダンスドリル競技大会 HipHop 部門優勝/総合優勝
  - ・Asia Open 銀メダル
- ★全国高等学校ダンスドリル WinterCup2014 HipHop 部門 優勝/総合第5位
- ★USA Regionals 大阪大会 2014 HipHop 部門 優勝
- ★American Dance Drill Team Nationals/Internationals Competition 総合優勝  
 （世界大会優勝）

◇ 吹奏楽部

- ・吹奏楽祭（京都コンサートホール）
- ★全国高等学校総合文化祭（長崎県）京都府代表
  - ・京都府吹奏楽コンクール（京都コンサートホール）
- ★マーチングショーバンド世界大会 2014（幕張メッセ） 銀賞
- ★NewS ライブツアー2013 神戸公演・10周年イベントライブ出演（東京ドーム）
- ★2013 マーチング・イン・オカヤマ
  - ・ビッグバンドフェスティバル（京都コンサートホール）

◇ バasketボール部

- ・全国高等学校選手権大会京都府予選 第3位
  - ★全国選抜大会京都府予選 第3位
    - ・近畿高等学校新人大会京都府予選 ベスト8
    - ・国体選手 5名選出
- 平成26年度国体選手 1次候補選手 3名

◇ ソフトボール部

- ・春季大会 第3位
- ・インターハイ予選 第3位
- ・国体選手2名選出
- ・第56回近畿高等学校選手権大会 出場
- ★近畿私立高等学校女子ソフトボール選抜大会Ⅱ部 第3位
- ★新人大会 優勝
- ★全国高校選抜大会 出場予定（3月末）

◇ 剣道部

- ・京都府高等学校総合体育大会(女子団体) ベスト8
- ・全国高校総体予選(女子団体) ベスト8
- ・京都府高校新人大会(女子団体) ベスト8
- 国体選手 最終候補選手 1名

◇ パソコン部

- ★ 第27回全国パソコン技能競技大会 出場
- ・ワープロ競技私学大会団体2位

[キャリア教育]

11月 6日～8日

第6回京都明德キャリアウィーク（インターンシップ職業体験、スカラシップ大学講義体験、ボランティア・スタディケア）

11月20日 社会人による講演会（3年）

1月15日 スーツ着こなし講座（3年）

2月 5日 社会人による講演会（1年）

19日 社会人による講演会（2年）

26日 パスポート取得説明会（1年）

3月 7日 高短連携模擬講義（第2学年対象 於：京都経済短期大学）

(2) 入学志願者数、受験者数、合格者数等の入学試験に関する状況について

・平成26年度入試

入学志願者数： 1129名

受験者数： 1117名

合格者数： 1051名

(3) 卒業生数等の状況について

平成25年度卒業生数： 203名（商業科63名、普通科140名）

[表彰]

日本私立中学高等学校連合会長表彰 1名

京都府私立中学高等学校連合会表彰 1名

全国商業高等学校協会卒業生成績優秀者表彰 1名

産業教育振興中央会会長賞 1名

京都府産業教育振興会会長賞 1名

京都府卒業生成績優秀者表彰 1名

全国商業高等学校主催資格検定1級合格

5種目1名、4種目1名、3種目4名

(4) 生徒の進路状況について

【四年制大学】

滋賀大学	1	京都ノートルダム女子大学	1	大阪成蹊大学	2
滋賀県立大学	3	京都看護大学	1	大阪学院大学	8
新潟県立大学	1	京都光華女子大学	3	大阪経済法科大学	2
島根県立大学	1	花園大学	4	平安女学院大学	2
同志社大学	1	明治国際医療大学	1	梅花女子大学	2
立命館大学	5	京都学園大学	6	大阪国際大学	1
関西大学	7	京都精華大学	1	神戸親和女子大学	1
龍谷大学	10	摂南大学	2	びわこ成蹊スポーツ大学	1
京都産業大学	18	藍野大学	1	帝塚山大学	3
佛教大学	3	追手門学院大学	4	奈良学園大学	1
京都女子大学	1	阪南大学	3	東京女子体育大学	1
同志社女子大学	1	大阪産業大学	1	環太平洋大学	2
大谷大学	7	大阪商業大学	4	新潟医療福祉大学	1
京都橘大学	2				

【短大・専門学校】

京都経済短期大学	18	大阪赤十字看護専門学校	1	大阪コミュニケーションアート専門学校	4
華頂短期大学	2	京都第二赤十字看護専門学校	1	大阪情報コンピュータ専門学校	3
関西外国語大学短期大学部	1	行岡医学技術専門学校	1	大阪ダンス&アクターズ専門学校	2
大阪成蹊短期大学	1	京都府医師会看護専門学校	2	大阪ビジュアルデザイン専門学校	1
大阪青山短期大学	1	洛和会京都厚生学校	1	大阪ビジュアルアート専門学校	4
滋賀文教短期大学	1	大原スポーツ&メディカル専門学校京都校	1	関西調理師専門学校	1
		大原簿記法律専門学校京都校	1	駿台観光外語ビジュアル専門学校	2
		キャリアホテル旅行専門学校	1	高津理容美容専門学校	1
		京都 IT 会計法律専門学校	1	修成建設専門学校	1
		京都医健専門学校	1	辻学園栄養専門学校	1
		京都栄養医療専門学校	1	辻調理師専門学校	1
		京都外国語専門学校	2	東洋医療専門学校	1
		京都動物専門学校	3	履正社医療スポーツ専門学校	2
		京都美容専門学校	2	放送芸術学院専門学校	2
		京都保育福祉専門学院	2	E S P エンタテインメント	2
		YIC 京都工科大学校	1	エイベックス・アーティストアカデミー大阪校	1
		YIC 京都パット総合専門学校	1	ホスピタリティウイズム専門学校大阪	1
		京都理容美容専修学校	2	ミス・パリエスティック専門学校	1
		日産京都自動車大学校	1	ロイヤルグルーミング学院	1
		大阪医療秘書福祉専門学校	1	甲陽音楽学院	1
		大阪ウエディング&ブライダル専門学校	2	神戸国際調理製菓専門学校	1
		大阪外語専門学校	2	東方学園専門学校	1
		大阪観光専門学校	1	日本工学院専門学校	1
		大阪こども専門学校	1		

## 【就 職】

森紙業（株）包装紙事業部	事務職	1
尾池工業（株）	事務職	1
京栄ニチュ（株）	事務職	1
都証券（株）	事務職	3
（株）精研	事務職	1
（株）ハウスウィンドウ	事務職	1
わらびの里（株）	販売職	1
つるや（株）	販売職	1
（株）ファイブ・フォックス	販売職	1
（株）マルカワ	販売職	1
マリング商事（株）	販売職	1
山崎製パン（株）	製造職	1

(株) DNP テクパック京都工場	製造職	2
わらびの里 (株)	製造職	1
テックワーク (株)	製造職	1
(株) サガテクノ	製造職	1
(株) 京都ホテル	接客・サービス職・その他	1
福山通運 (株)	接客・サービス職・その他	1
京滋総合警備保障 (株)	接客・サービス職・その他	1
(株) 共立メンテナンス	接客・サービス職・その他	1
(株) カライフサービス	接客・サービス職・その他	1
(株) 泉仙	接客・サービス職・その他	1
(株) やる気	接客・サービス職・その他	1
三協ユニット (株)	接客・サービス職・その他	1
(有) エル・グレコ	接客・サービス職・その他	1
(有) たかはし動物病院	接客・サービス職・その他	1

(5) 今後の課題について

冒頭述べたように平成25年度は300名を超える入学生を迎えた年度であった。新入生は学習意欲、クラブの加入率ともに高く、学内に更なる活気をもたらしてくれた。次年度も350名を超える入学生を迎える。この状況を持続させ、更に発展させていくことが今後の課題である。

4. 京都成章高等学校

(1) 当該年度の事業の概要について

[1] 教育

① 授業

平成25年度も学則に定められた授業日数は満たされ、また各教科・科目についても学習指導要領に則った教科教育が果たされた。

② 学校行事

- ・ 4月 6日 第28回 入学式
- ・ 23日 遠足（1年バーベキュー 2, 3年はクラスごとに設定）
- ・ 5月 8日 陸上競技記録会 場所：西京極サブグラウンド
- ・ 6月 5日 2年生 芸術鑑賞
- ・ 6日 3年生 芸術鑑賞
- ・ 20日 1年生 芸術鑑賞
- ・ 9月25・26日 文化祭
- ・ 10月 8日 体育祭
- ・ 11月 6日 球技大会
- ・ 2月17～20日 2年生 スキー研修旅行 場所：タングラムスキー場
- ・ 2月18～21日 1年生 スキー研修旅行 場所：白馬コルチナ国際スキー場

③ 進路指導関係

- ・ 5月27～31日 3年生 保護者対象進路説明会（於 エミナース）
- ・ 6月12日 1年生 大学見学会（京都産業大学）
- ・ 13日 1年生 進路集会
- ・ 18日 2年生 進路集会
- ・ 10月 3・4・7日 1年生 学部・学科ガイダンス
- ・ 10月24・25日 2年生 保護者対象 大学入試説明会
- ・ 11月 6日 1年生 進路集会
- ・ 11月15日 2年生 大学見学会（関西大学）
- ・ 17日 2年生 大学見学会（京都大学）
- ・ 28日 2年生 大学見学会（立命館大学）
- ・ 9月～12月 3年生 大学推薦入試指導・対策
- ・ 12月上旬～ 3年生 私立大学出願面談
- ・ 1月6・7日 3年生 センター試験リハーサル
- ・ 24日 3年生 センター試験出願検討会

④ 生活指導

平成25年度はネットいじめ対策、スマートフォン、LINE、ツイッターの使用制限を含めた指導の徹底、および「マナー」や「安全」などについての意識向上に努めた。

校内学習

- ・ 5月 7日 人権集会

外部講師による講演

- ・ 4月17日 全学年対象  
「e-net安心講座」(スマートフォンの危険性について)  
NPO法人 湘南ネットしが 理事長 斎藤 富士夫 氏
- ・ 10月17日 1. 2年生対象  
「大学の魅力」  
立命館大学 キャリアオフィス課長 杉町 宏 氏
- ・ 11月21日 1. 2年生対象  
「法律講座・・・身近に起こる人権の衝突」  
船橋速見法律事務所 弁護士 船橋 恵子 氏
- ・ 1月22日 1. 2年生対象  
「省エネルギー・新エネルギーと私たちの暮らし」  
関西大学 環境都市工学部 教授 池永 直樹 氏

⑤ 外部講師による保護者対象講演

- ・ 6月14日 「e-net安心講座」(スマートフォンの危険性について)  
NPO法人 湘南ネットしが 理事長 斎藤 富士夫 氏
- ・ 11月 8日 「プロとしての生き方とチャレンジ」  
講師：元プロ野球選手 古田 敦也 氏
- ・ 12月20日 「大学生の就職活動と就職状況」  
立命館大学 キャリアセンター  
キャリアオフィス課長 杉町 宏 氏

⑥ 学級懇談会

- ・ 5月 2日 ・ 6月14日 ・ 11月 8日 ・ 12月20日

⑦ 三者面談

- 7月22日～8月2日

⑧ 進学講座

- 毎週月・火・木・金の4日間、原則1コマ70分を2講座実施。

⑨ 長期休暇中の学習活動

- ・ 春季休暇中・・・1週間の進学講習
- ・ 夏季休暇中・・・4週間の進学講習
- ・ 8月19～23日 1, 2年生 宿泊学習 場所：芦原温泉 清風荘
- ・ 冬季休暇中・・・1週間の進学講習

⑩ 教育の管理

- ・ 授業評価アンケートの実施
- ・ 学力到達度テストの実施
- ・ 体罰の有無についてのアンケート及び校長によるヒアリング
- ・ 研究授業を6月と11月に実施

## [2] 健康・安全管理

### ① 学校衛生委員会の開催と充実

毎月第二水曜日（16:40～）に、校長、教頭、衛生管理者、産業医、保健主事、養護教諭、教職員代表らによる、教職員の健康管理を目的とした「学校衛生委員会」を開催。以下は各回で審議されたテーマ。

- ・教職員健康診断対策
- ・教職員のメンタルヘルスケアについて
- ・職場の衛生環境整備について
- ・学校ダニアレルゲン検査について
- ・結核定期健康診断実施報告について
- ・教職員インフルエンザ対策
- ・ノロウィルスの消毒と教職員への感染防止について
- ・排便リズムとストレスについて考える
- ・40歳以上の特定保健指導の受診について

### ② 学校保健会（5月30日）

校医および薬剤師との、生徒の健康及び学校内の衛生管理についての協議。

### ③ 教職員健康診断

6月27日

教職員対象健康相談

10月25日

### ④ 生徒の健康・安全管理

- ・ 4月11日 生徒検尿
- ・ 28日 生徒健康診断
- ・ 6月5日 交通安全教室
- ・ 9月10日 クラブ員検尿
- ・ 11月17日 学校安全点検
- ・ 2月13日 1, 2年生 スキー研修前内科検診

## [3] 設備の整備

平成25年度は、平成23年度から実施された中期改装計画は3年目となり、以下のよ  
うな改装、改修を行い、更に修繕費等により積極的に校地内の施設の修繕を行った。

- ・別館教室内改装
- ・別館トイレの改修
- ・別館エントランスの改修
- ・テニスコートのフェンス及び野球部用の防球ネットの設置
- ・雑木の伐採
- ・校地内の緑化 など

## [4] 教員の研究・研修及び協議会・フォーラム関係

①教科教育及び進路指導の向上を目的とした研修

6月15日	ベネッセ 入試結果説明会	KKRホテル大阪
21日	進路指導研究会総会	ND女学院高校
7月5日	京都高校数学研究会	京都教育大学附属高校
12日	夏期教育研究セミナー	駿台教育研究所
23日	大学入試センター試験説明協議会	大阪国際交流センター
11月21日	駿台教育研究所 冬期教育研究セミナー	
2月28日	駿台教育研究所 春期教育研究セミナー	

②その他の研究会・研修会・セミナー

5月23日	学校保健研究会	京都学園高等学校
24日	私学生活指導研究大会	大谷高等学校
6月25日	連合会教職員部会研修会	私学会館
7月5日	私立中高人権教育研究会	花園高等学校
9日	安全運転管理者講習	京都J A会館
31日	司書部会研究会	洛星高等学校
8月9日	近畿学校図書館研究大会	同志社大学
27日	「情報館」短期集中セミナー	共和テクノロジーズ
12月13日	人権教育研究会	私学会館

③協議会・フォーラム

5月25日	図書館協議会	同志社女子高等学校
31日	南部地域高校連絡協議会	京都テルサ
6月6日	高芸文連理事会	ルビノ堀川

(2) 平成26年度入試結果について

	AS合格	アカデミー合格	ゼネラル合格	合格者計	不合格
専願	60	165	56	281	2
併願	315	200	38	553	0
合計	375	365	94	834	2

(併願合格者数の中には、専願で受験するも、希望クラスでの合格でなかったために併願合格に切り替わった生徒の数が含まれる。)

(3) 卒業生数の状況について (3月1日卒業証書授与式を挙げる)

平成25年度卒業生 424名

III 財務の概要について

学校法人明德学園の平成25年度決算は、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に従って計算書類を作成し、公認会計士の外部監査及び学園監事による内部監査を受けた後、平成26年5月23日の理事会及び評議員会において審議、承認されたものである。

## 1. 財務三表

### (1) 資金収支の状況

「資金収支計算書」は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての資金の動きを明らかにするための計算書類である。

#### 資金収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位 円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,674,178,000	1,674,545,200	△ 367,200
手数料収入	45,825,000	46,507,800	△ 682,800
寄付金収入	18,927,000	19,176,295	△ 249,295
補助金収入	1,065,727,931	1,065,727,931	0
資産運用収入	82,714,000	84,441,519	△ 1,727,519
資産売却収入	215,000,000	226,546,562	△ 11,546,562
事業収入	15,907,000	16,126,275	△ 219,275
雑収入	37,657,000	38,669,629	△ 1,012,629
前受金収入	358,000,000	385,546,521	△ 27,546,521
その他の収入	1,030,268,421	1,048,864,168	△ 18,595,747
資金収入調整勘定	△ 478,349,796	△ 478,186,322	△ 163,474
前年度繰越支払資金	1,125,727,646	1,125,727,646	
収入の部合計	5,191,582,202	5,253,693,224	△ 62,111,022
支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,507,353,000	1,503,213,623	4,139,377
教育研究経費支出	778,072,000	771,358,783	6,713,217
管理経費支出	134,864,000	131,460,502	3,403,498
施設関係支出	7,501,000	7,500,331	669
設備関係支出	25,213,000	25,178,389	34,611
資産運用支出	822,396,000	778,077,837	44,318,163
その他の支出	1,023,799,431	988,640,897	35,158,534
〔予備費〕 (0)	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△ 67,943,793	△ 68,598,859	655,066
次年度繰越支払資金	950,327,564	1,116,861,721	△ 166,534,157
支出の部合計	5,191,582,202	5,253,693,224	△ 62,111,022

(2) 消費収支の状況

「消費収支計算書」は、当該会計年度の収支の状況を明らかにし経営成績を表すものである。

消費収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位 円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,674,178,000	1,674,545,200	△ 367,200
手数料	45,825,000	46,507,800	△ 682,800
寄付金	21,882,000	22,132,887	△ 250,887
補助金	1,065,727,931	1,065,727,931	0
資産運用収入	82,714,000	84,441,519	△ 1,727,519
資産売却差額	24,000,000	29,632,578	△ 5,632,578
事業収入	15,907,000	16,126,275	△ 219,275
雑収入	37,657,000	38,669,629	△ 1,012,629
帰属収入合計	2,967,890,931	2,977,783,819	△ 9,892,888
基本金組入額合計	△ 200,000,000	△ 200,000,000	0
消費収入の部合計	2,767,890,931	2,777,783,819	△ 9,892,888

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,543,918,000	1,539,776,590	4,141,410
教育研究経費	953,939,000	947,145,483	6,793,517
管理経費	146,956,000	143,512,153	3,443,847
資産処分差額	9,271,000	9,253,443	17,557
徴収不能引当金繰入額等	2,000	1,473	527
〔予備費〕 ( 0 )	10,000,000		10,000,000
消費支出の部合計	2,664,086,000	2,639,689,142	24,396,858
当年度消費収入超過額	103,804,931	138,094,677	
前年度繰越消費支出超過額	1,272,929,578	1,272,929,578	
基本金取崩額	3,911,000	3,909,546	1,454
翌年度繰越消費支出超過額	1,165,213,647	1,130,925,355	

【主な科目の内容】

#### □収入の部

- ・ 学生生徒等納付金  
授業料、入学金、学園充実費、教育充実費、施設維持費、実験実習費等のこと  
で帰属収入の大半を占める。
- ・ 手数料  
手数料の中心は入学検定料、その他各種証明書の発行手数料などである。
- ・ 寄付金  
用途指定のある特別寄付金と用途指定のない一般寄付金がこれに当たり、消  
費収支では更に現物寄付金加わる。
- ・ 補助金  
国庫補助金や京都府私学運営費補助金を中心で、学生生徒等納付金に次ぐ収  
入源である。
- ・ 資産運用収入  
学園が保有する預金や有価証券等金融資産の受取利息が中心で、施設設備利  
用料等加わる。
- ・ 資産売却差額  
有価証券や土地など売却した資産の、帳簿価額を超える場合の超過額が、こ  
れにあたる。
- ・ 事業収入  
補助活動事業収入や公開講座収入がある。
- ・ 基本金組入額  
学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を、継続的に保持するた  
めに維持すべきものとして、帰属収入のうちから組み入れるものである。

#### □支出の部

- ・ 人件費  
本務教職員や兼務教職員等の「基本給、各種手当、賞与、退職給与引当金繰  
入額等」である。
- ・ 教育研究経費  
奨学費、光熱水費、消耗品費、修繕費、旅費交通費、賃借料、印刷製本費、  
通信費等がある。
- ・ 管理経費  
学生生徒募集の広報費や学生生徒の寮関連経費、教職員の福利厚生費、法人  
業務に関する経費等がある。
- ・ 施設関係支出  
建物や構築物に支出した勘定である。
- ・ 設備関係支出  
教育研究用機器備品やその他の機器備品に支出した勘定である。
- ・ 資産運用支出

将来の固定資産準備金、有価証券の購入や特定事業目的への繰入額となる「引当特定資産への繰入支出」が中心である。

・資金支出調整勘定

当年度の諸活動に対応する支出であるが、資金の支出が当年度に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定である。

(3) 貸借対照表の状況

「貸借対照表」は、期末における資産、負債、自己資金の状況を明らかにし、財政状態を表すものである。

貸借対照表  
(平成26年3月31日現在)

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	14,647,560,639	14,268,513,763	379,046,876
有形固定資産	10,346,104,453	10,499,002,309	△ 152,897,856
その他の固定資産	4,301,456,186	3,769,511,454	531,944,732
流動資産	1,688,002,843	1,730,802,424	△ 42,799,581
資産の部合計	16,335,563,482	15,999,316,187	336,247,295
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	339,050,167	302,487,200	36,562,967
流動負債	539,436,020	577,846,369	△ 38,410,349
負債の部合計	878,486,187	880,333,569	△ 1,847,382
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	15,376,752,650	15,380,662,196	△ 3,909,546
第2号基本金	300,000,000	200,000,000	100,000,000
第3号基本金	694,250,000	594,250,000	100,000,000
第4号基本金	217,000,000	217,000,000	0
基本金の部合計	16,588,002,650	16,391,912,196	196,090,454
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	1,130,925,355	1,272,929,578	△ 142,004,223
消費収支差額の部合計	△ 1,130,925,355	△ 1,272,929,578	142,004,223
科 目	本年度末	前年度末	増減
負債・基本金・消費収支差額の部合計	16,335,563,482	15,999,316,187	336,247,295

2. 当該年度の決算の概要について

ここでは、決算後の本学園の財政状態を確認すべく、その見方の説明を加えながら貸借対照表をみていく。

#### 資産の部

財産の運用状況、つまり使い道のことであり、「固定資産」と「流動資産」に分かれる。校舎、グラウンド、体育館、情報機器、視聴覚機器、図書、マイクロバス等、明德学園の各学校が教育研究活動を進めていくために必要な施設・設備を「固定資産」と呼び、約146億円ある。また、経営に必要な資金として、現金預金、有価証券、未収入金、前払金等があり、これらを「流動資産」と呼び約17億円ある。これらの資産の合計額、約163億円が学園の財産となる。

#### 負債の部

負債の部においても、資産の部と同じように「固定負債」と「流動負債」とに分かれ、退職金、預り金など将来支払わなければならないものがここに含まれる。

#### 基本金の部

基本金とは、学校法人が諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、帰属収入（負債にならない収入）のうちから組み入れる金額のことである。

基本金は第1号から第4号までに分かれており、第1号基本金は、資産の部にある有形固定資産を自己資金で取得した場合に組入れられるものである。第2号基本金は、施設計画等がある場合にその取得にむけて計画的に組入れるもので、第1号基本金とともにハード面を目的とした基本金となる。一方、第3号基本金は、学園創立記念奨学基金や教育振興基金など学生生徒や教職員を支援していくために組入れられるソフト面の要素をもつ基本金であり、明德学園ではこの第3号基本金の充実を目指している。第4号基本金は、学校法人の運転資金の額とされている。

#### 消費収支差額の部

上記の基本金に消費収支差額を加えたものが、企業会計で言う資本の部に当たり、正味財産とも言える。本年度末時点において、正味財産が155億円程ある。

### 3. 主な施設設備の整備状況について

京都経済短期大学における教育情報システムのリニューアルや、京都明德高等学校における第3コンピュータ教室の更新、京都成章高等学校における別館教室・廊下・トイレの改修などを実施し、学生生徒の学習環境の整備を進めている。

### 4. 財産目録

財産目録

(平成26年3月31日現在)

I 資産額	16,335,563,482 円
内 (1) 基本財産	10,348,421,957 円
(2) 運用財産	5,987,141,525 円
II 負債額	878,486,187 円
III 正味財産	15,457,077,295 円

科 目		年 度 末	
I 資 産 額			
(1) 基 本 財 産		10,348,421,957 円	
1 土 地	69,095.00 m <sup>2</sup>	5,802,002,134 円	
2 建 物	31,200.65 m <sup>2</sup>	4,147,026,225 円	
3 構 築 物		51,527,793 円	
4 図 書	93,851 冊	242,629,922 円	
5 教 具 ・ 校 具 ・ 備 品	21,697 点	102,178,649 円	
6 そ の 他		3,057,234 円	
(2) 運 用 財 産		5,987,141,525 円	
1 現 金 預 金		1,116,861,721 円	
2 そ の 他		4,870,279,804 円	
合 計		16,335,563,482 円	
II 負 債 額			
1 固 定 負 債		339,050,167 円	
(1) 退職給与引当金		339,050,167 円	
2 流 動 負 債		539,436,020 円	
(1) 前 受 金		385,546,521 円	
(2) そ の 他		153,889,499 円	
合 計		878,486,187 円	
III 正 味 財 産 ( I - II )		15,457,077,295 円	

5. 主な財務比率について

	比率名	算 出	指 標 (※3)	全国平均 (※4)	平成25年度 (※5)
		41			
貸	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産 (※1)}}$	▼	85.2%	89.7%
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産 (※1)}}$	△	14.8%	10.3%
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債}}$	▼	5.8%	9.1%

